

ネットワークシステム部 導入事例

Network System Case Study

教育系ネットワーク回線の10G化で止まらないネットワークを構築。
コロナ禍でのストレスの無い遠隔授業を実現。

Case No.006

学校法人 東京聖徳学園(聖徳大学・聖徳大学短期大学部) 様

Problem 1.背景、構築の経緯、お困りごと

1

以前からネットワーク増強を検討していた所、コロナによるオンライン授業で帯域が逼迫する

2

事務用と教育研究用で回線を共用しているため、片方の利用増加で、もう一方にも影響が出る

3

ネットワーク増強・維持にあたってのコストコントロール

導入先企業情報

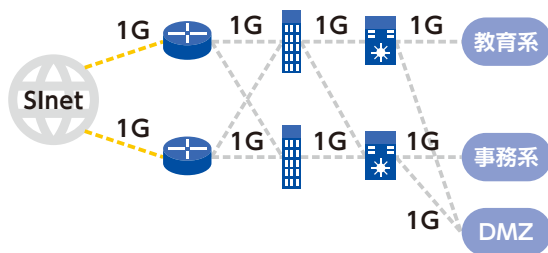
聖徳大学・聖徳大学短期大学部

- 所在地：千葉県松戸市
- 設立：大学1990年、短期大学1965年
- 大学：教育学部、心理・福祉学部、文学部、人間栄養学部、看護学部、音楽学部
- 短期大学：保育科第一部、保育科第二部、総合文化学科
- 大学院：児童学研究科、臨床心理学研究科、言語文化研究科、人間栄養学研究科、看護学研究科、音楽文化研究科、教職研究科[教職大学院]
- <https://www.seitoku-u.ac.jp/>

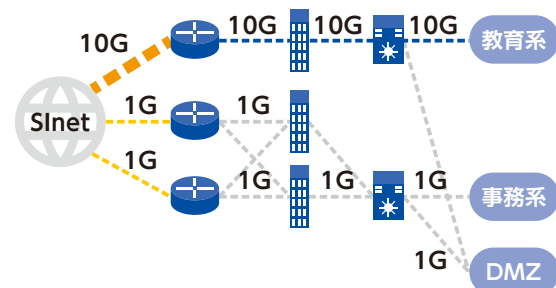


System 2.システム概要

■更新前環境



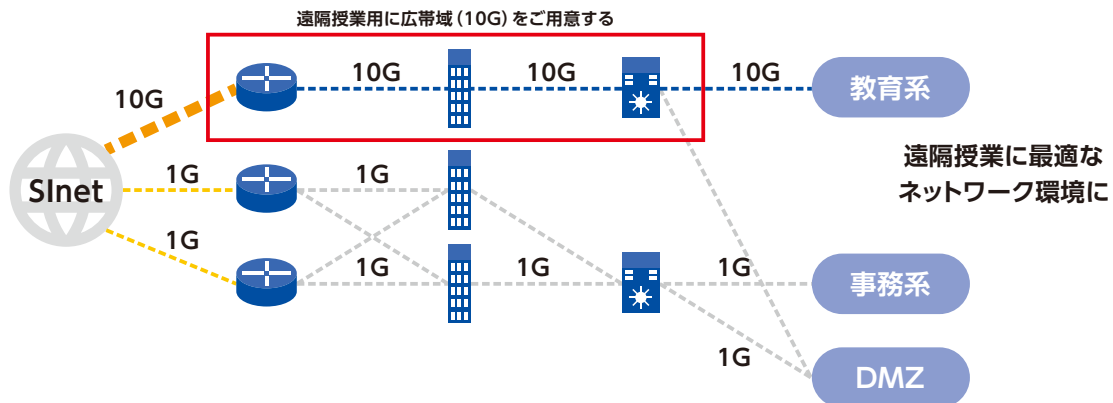
■提案環境



Solution

3. 技術的な解決策

教育系ネットワークの増強



ユーザー
メリット

- 高速ネットワークによりストレス無く授業を受けられる。
- 補助金を活用することでコスト低減が図られる。

Effect

4. 導入の効果

- 1 遠隔授業が急に増えたためネットワークが不安定になった

→ 利用回線を分離し、教育研究用に10G回線を利用する事で、オンライン授業でのトラフィック負荷を低減。スムーズな授業進行で利用環境が改善。
- 2 学生の満足度を向上したい

→ 既存回線を事務用とする事で、安定した帯域を確保。事務用、教育研究用それぞれの負荷が相互に影響しなくなった。
- 3 低コストで構築したい

→ 基幹回線の増速と合わせて、附属機関等の拠点間通信構成を最適化し、トータルのランニングコスト低減を実現した。
- 4 今後の拡張性を考えたい

→ 将来の構内ネットワークの高速化に対応できる機器構成を採用し、拡張性を担保。

Voice of Customer お客様の声

- アプリによる一時的な通信断はあるもののネットワークを高速化することで、帯域による不安が無くなりました。
- 今後はこの広がった帯域をより有効活用できるようにしたい。

【お客様担当】



学校法人 東京聖徳学園
聖徳大学・聖徳大学短期大学部
情報システム課副課長
兼 総合メディア室副室長
石井隆央氏

今後の取り組み・展開

- インフラによる懸念を払拭出来たので、今後も最大限に利用出来る様にご提案を進めていきます。